

2015年6月7日川越教会

歴史の不思議

加藤 享

[聖書] 出エジプト記1章1～21節

ヤコブと共に一家を挙げてエジプトへ下ったイスラエルの子らの名前は次のとおりである。ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イサカル、ゼブルン、ベニヤミン、ダン、ナフタリ、ガド、アシェル。ヤコブの腰から出た子、孫の数は全部で七十人であった。ヨセフは既にエジプトにいた。

ヨセフもその兄弟たちも、その世代の人々も皆、死んだが、イスラエルの人々は子を産み、おびただしく数を増し、ますます強くなって国中に溢れた。そのころ、ヨセフのことを知らない新しい王が出てエジプトを支配し、国民に警告した。

「イスラエル人という民は、今や、我々にとってあまりに数多く、強力になりすぎた。抜かりなく取り扱い、これ以上の増加を食い止めよう。一度戦争が起これば、敵側に付いて我々と戦い、この国を取るかもしれない。」

エジプト人はそこで、イスラエルの人々の上に強制労働の監督を置き、重労働を課して虐待した。イスラエルの人々はファラオの物資貯蔵の町、ピトムとラメセスを建設した。しかし、虐待されればされるほど彼らは増え広がったので、エジプト人はますますイスラエルの人々を嫌悪し、イスラエルの人々を酷使し、粘土こね、れんが焼き、あらゆる農作業などの重労働によって彼らの生活を脅かした。彼らが従事した労働はいずれも過酷を極めた。

エジプト王は二人のヘブライ人の助産婦に命じた。一人はシフラといい、もう一人はプアといった。「お前たちがヘブライ人の女の出産を助けるときには、子供の性別を確かめ、男の子ならば殺し、女の子ならば生かしておけ。」助産婦はいずれも神を畏れていたもので、エジプト王が命じたとおりにせず、男の子も生かしておいた。エジプト王は彼女たちを呼びつけて問いただした。「どうしてこのようなことをしたのだ。お前たちは男の子を生かしているではないか。」助産婦はファラオに答えた。「ヘブライ人の女はエジプト人の女性とは違います。彼女たちは丈夫で、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」神はこの助産婦たちに恵みを与えられた。民は数を増し、甚だ強くなった。助産婦たちは神を畏れていたもので、神は彼女たちにも子宝を恵まれた。

[序] 神の民イスラエル

イスラエルの民の始祖と言われる**アブラハム**は、文明の発祥地の一つメソポタミアの流域に暮すセム族の出身です。父の**テラ**は一族から離れてカナン地方

に向かって移動を開始しましたが、ユーフラテス川の上流ハランの町に留まって生涯を終えました。しかしアブラハムは、神の招きに励まされて、父の意志を継いで、**75 才**でハランを出立し、行き先がどんな所かも知らないままに、持ち物を全部携え一家でカナン地方に移動しました。そしてガリラヤ湖から死海に流れ込むヨルダン川の西側**カナン地方**の、シケム、ベテルに居を定めて暮らし始めました。

ところが**アブラハム**も二代目**イサク**も三代目**ヤコブ**も、神から示された地に暮しながら、共に家を建てず、仮住まいの**幕屋生活**を続けたのです。その信仰を新約聖書はこう受け取っています。「神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ**都を待望していたから**」(ヘブライ 11:10)「更にまさった故郷、即ち**天の故郷を熱望していたから**」(11:16) この信仰の故に、彼らが**神の民イスラエルの始祖**といわれているのです。

[1] エジプトへの移住

イスラエルの始祖の三代目ヤコブは、波乱にとんだ生涯を送りました。彼の晩年にはカナンの地を捨てて、一家で**エジプトに移住**を余儀なくされる破目になっています。理由の発端は、彼が 12 人の息子の 11 番目**ヨセフ**を特別に可愛がったからでした。10 人の兄たちが彼を妬んで奴隷商人に売り飛ばし、ヨセフはエジプト王の侍従長の家の奴隷にされてしまいました。ところがそのヨセフを神が導いて出世させ、エジプトの国で**王に次ぐ地位**に就かせたのです。

するとエジプトとカナンを含む広い世界に**大飢饉**が起きました。しかしエジプトはヨセフの適切な政策で、食糧を豊かに貯えました。エジプトに食糧を買いに来た兄たちは、そこでヨセフと再会して腰を抜かすほどに驚きました。しかしヨセフは兄たちを赦して、飢饉が当分続くからヤコブ一家がエジプトに移住するよう強く勧めました。当然、ヤコブはためらいました。すると**神**が語りかけました。「エジプトへ下ることを**恐れてはならない**。わたしはあなたをそこで**大いなる国民にする**。わたしが**あなたと共に**エジプトに下り、わたしがあなたを**必ず連れ戻す**。ヨセフがあなたのまぶたを閉じてくれるだろう」(創世記 46 : 3~4)

ヤコブは決意して、11 人の息子と**家族 70 人**で移住しました。そしてヨセフの配慮で、エジプトの東の端ナイル川の河口**ラメセス地方**に土地を与えられました。そこはエジプトでも最も肥沃です。ヤコブは平安な生涯を終えました。それから **430 年**が経過します。肥沃な土地で、イスラエルの民は壮年男子だけで

も **60 万人**、女性・子どもを含めれば**百数十万の民族集団**に成長したのです。

さてこのように成長したイスラエル民族の大集団が、どのようにしてエジプトからカナンの地に戻って来ることが出来たのでしょうか。**歴史の大ドラマ**が展開していきます。それが**出エジプト記**の記録で、私たちは、その一部分を 聖書教育に従って9月末まで4ヶ月間学んでいきます。

それにしても430年間で70人が百数十万人の民族に成長するとは驚きです。私たちが暮す川越から西の日高・秩父の地方は、**1300年前**に当時の朝廷が **高麗郡**を設けて、朝鮮半島の高句麗から亡命してきた帰化人**1799人**を住まわせて、原野を開発させました。こうして豊かな地域に発展して来たのですが、しかし1300年後の今日でも、日高・飯能市の人口は併せて14万人余。川越市の人口を加えても**50万人**にも達しません。

ですから、わずか430年間で70人が百数十万人の民族に成長したとは**驚異的**です。これはまさに、「わたしはあなたをそこで**大いなる国民にする**」と ヤコブに約束された**神さまの働き**の結果としか考えられません。

[2] エジプト王の迫害

しかし自分の国の中にカナンから移住して来たイスラエルの民が、これほど大きな集団となり更に増え続ける状況は、**エジプト王**にとっては**国家的な危険**と映りました。もし東方から敵が攻めて来たら、ナイル川の流域が戦場になります。そしてそこに住むイスラエルの人々が敵側についたら大変です。王朝はイスラエルに好意的な**セム系**から、エジプト土着の民**ハム系**の王朝に代わっていましたが、なおさらユダヤ人に対する王の**疑いと恐れ**は募りました。

そこでイスラエルを**弱体化**するために、重労働を課して虐待を始めたのです。ラメセス地方に**物資貯蔵の町**を幾つも建設させて、収穫物を納めさせ、軍隊を常駐させて監視することにしました。しかしイスラエルの民は、あらゆる**苛酷な労働・虐待**にもへこたれず、増え広がっていきます。そこで王は**助産婦**に、彼らの女性が**男の子**を出産したら**すぐに殺せ**と命じましたが、助産婦たちはヘブルの女性でしたから、命令に服しません。こうして民は数を増し、ますます強くなって行きました。そこまでが今日の学びの箇所です。

王が「それでは男の赤ん坊はすぐに**ナイル川に放り込め**」と命じました。ここで後にイスラエルの民族集団を、エジプトから脱出させてカナンに戻らせた

指導者**モーセ**が登場します。彼は生まれて**3ヶ月**秘かに育てられてから、防水加工をした**パピルスの籠**に入れられてナイル川の葦の陰に置かれました。そして水浴びに来たエジプト王の**王女**に拾われて**養子**になり、王宮で育てられることとなります。これは来週の学びです。

[3] 万事を益にする神

私はここで、イスラエル民族として大集団に**成長した経過**に、あらためて注目したいと思います。ヤコブの代にはわずか**70人**だったイスラエルが**百数十万人の民族**に成長したのは、彼らがカナンから、エジプトのナイル川の河口の肥沃なラメセス地方に**移住**したからでした。アブラハム、イサク、ヤコブと三代にわたってここが神さまから与えられた居住地と信じて暮して来た地カナンから、**どうして**エジプトに移住したのでしょうか。

そもそもの**原因**は、ヤコブが他の10人の息子よりも最愛の妻ラケルがやっと産んでくれた**ヨセフを特別に寵愛した**からです。11人の息子の一人を偏愛するなど、理由がどうであれ父親として**愚かさ**の最たるものです。その結果ヤコブはヨセフをエジプトの奴隷にしまいました。

ヨセフはそのために、異国で**様々な苦しみ**に遭います。しかしその苦しい経験のどん底で、エジプト国王の夢を解き明かす機会を与えられたのです。そして国王に重く用いられるようになり、父や兄弟全員を救うことが出来ました。また7年間も続く**大飢饉**という災害が、エジプトとカナンに隔てられていた親子兄弟を結びつけて、**エジプト移住**へと導いてくれたのです。

私はここでも、パウロの言葉が心に浮かんできます。「神を愛する者たち、つまり、ご計画に従って召された者たちには、**万事が益となるように共に働く**ということ、私たちは知っています」(ローマ8:28)

ヨセフの波乱に富む生涯にしても、**全ての事**が共に働いて益となりました。それはヤコブもヨセフも神を愛する者、神を信じて祈る者、それ故に**神の救いのご計画に召された者**だったからではないでしょうか。ですから、カナンからエジプトに移住することをためらうヤコブに、「エジプトへ下ることを**恐れてはならない**。わたしはあなたをそこで**大いなる国民にする**。わたしが**あなたと共に**エジプトに下り、わたしがあなたを**必ず連れ戻す**。」と語りかけて、背中を押して下さったのでした。そして神さまは約束通りエジプトでも一番肥沃なラメセス地方に安住させて、430年間で一大民族集団に成長させて下さったのでした。

【結】 十字架の愛を信じて

主イエスは、十字架につけられる数日前に、5タラント、2タラント、1タラントを主人から託された僕の譬えをなさいました。他の二人が失敗を恐れずに、そのお金で商売をして倍に増やしましたが、1タラントを託された僕は、その金を土の中に埋めて、主人にそのままを返しました。そして「**怠け者の悪い僕だ**」と厳しく叱られ、外の暗闇に追い出されました。

札幌時代に一緒に長く教会に仕えた**盲人の兄弟**がいました。彼は盲人ゆえに**引っ込み思案**になりがちな自分を、**1タラントの男**と言って自戒していました。そしてこう話してくれました。1タラント預かった僕が、商売に失敗して、「ご主人さま、一生懸命働いたのですが失敗して、大切なお金を全部失ってしまいました」と言ったら、「いやいや僕よ、**お前の失敗**は、お前に**多くのことを教えてくれた**ではないか。それはお金に代えられないものだよ」と言って、励ましてくれたのではないのでしょうか、と。

そうです。私たちも皆、これまでの人生で**色々な失敗**をして来ました。しかし今振り返って見る時、ヤコブの生涯と同じく、**万事が益となる**ように共に働くという恵みを神さまから頂いて来ているのではないのでしょうか。万事——**どんな事でも全てを**、必ず私たちの益となるようにして下さるのです。どんな状況、たとえ**最悪な出来事**からでも、光りを引き出して導いてくださるのです。「**すべてのことは、父からわたしにまかされている**」(マタイ 11:27)とおっしゃる**主イエス**が、私と共に居て下さるからです！

今日は6月の第一日曜日です。これから十字架についてご自分の肉を裂き、血を流して死なれた**救い主イエス・キリスト**を覚えて、主の晩餐式をご一緒に守ります。妬みから主を十字架にかけようとした**ユダヤ教指導者**たち、自己保身から十字架刑執行を命じた**総督ピラト**、不和雷同する**群衆**、逃げ散って姿をくらす**弟子たち**。このような人間模様の渦巻く中で、自ら進んで**十字架**につけられ「**父よ、彼らをお赦してください**」と祈りつつ、すべての人の罪を贖う死を遂げて下さった**主イエス**。この御子イエス・キリストの十字架によって、ご自身の**愛を現された天の父なる神さま**。

この神さまが、失敗を繰り返すヤコブにも「エジプトに下ることを恐れるな」と語りかけて、お約束通りに歴史を導いて下さいました。私たちも、**神さまは全ての事を益となるように働いて下さる**との信仰に立って、自分の**愚かさや罪深さ**の全てを、主なる神さまにお委ねして、信仰生活を送って参りましょう。

お祈りします。

あなたを信じる者に、全ての事を益としてくださる神さま。あなたの御名を心から賛美します。私の愚かさや罪深さのゆえに、へまばかりをしてしまいます。お赦し下さい。しかし貴方は、ヤコブの愚かさを用いて、先ずエジプトにヨセフを送り、大飢饉を起こしてヤコブ一家をエジプトの一番肥沃な土地に移住させました。そしてイスラエルを民族に育てられて、カナンの地に再び戻す備えをなさいました。神さま。貴方はこの小さな私をも、信仰のゆえに救いの御業の一端をさせようと、お用い下さることを信じます。どうぞ、お用い下さい。十字架に付いて肉を裂き、血を流して私たちの罪を贖って下さいました主イエスさま、晩餐にあずかる私たち一人一人に御霊と共に臨み、共に生きて下さいますように。この小さな川越教会をキリストの体として養い、育て、お用い下さいますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン